

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)
 在外研究
 2011年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	文学部史学科 ・ 教授		上田 信 印	
研究課題	元・明・清時代の人口動態と生態環境の変化 - 雲南省西部～浙江省東部盆地地帯 -			
研修期間	2011年8月29日 ～2011年10月30日 (63日間)			
経費	年度経費	SFR助成額	所属学部からの補助額	合計
	2010年度	円	円	円
	2011年度	800,000円	0円	円
主な滞在国 及び 研究機関名	国名	研究機関名		
	中国	復旦大学歴史地理研究中心		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>上海図書館に所蔵されている族譜資料を精査し、14世紀から19世紀にいたる500年という長期間にわたり、浙江省東部の山地・盆地地域における人口の変化と生態環境の変化との関係を解明することができた。</p> <p>族譜とは、同族集団(宗族)がその構成員の生没年などの情報を数百年にわたって記載した史料である。従来は父系原理から説明されることの多かったが、本研究においては、中国社会を、女性(母・妻・娘)の側から情報を整理し、最初の出産年齢・特殊出生率・出生間隔などの推定値を明らかにしようと試みた。こうした研究は、歴史人口学の領域で研究が進んでいる。</p> <p>本研究では、家族のライフサイクルを解析することで、ひとりの女性が出生する子どもの数(特殊出生率)、死亡率の季節的な変動などを明らかにすることを目的として、上海図書館に収蔵されている族譜のなかで、もっとも集中して族譜が集積している浙江省諸甌盆地を取り上げ、総数500種ほどの族譜のすべてに眼を通すことができた。多数の族譜のなかから、歴史人口学的な分析に耐える情報を有する族譜約80種について、集中的に人口学的データを採録した。</p> <p>族譜を用いた歴史人口学的研究は、1990年代に申請者が先鞭をつけ、月別死亡率の検討から死亡の季節的偏差が17世紀ごろから少なくなり、慢性的飢饉状態から中国地域社会が脱却したのではないか、という推測を出した。この方法は韓国・朝鮮史研究者にも影響を与えた。しかし、当時の中国において族譜は「封建的遺物」として位置づけられ、族譜の収集・整理が進められておらず、日本の現存する族譜に依拠して研究を行わざるを得なかった。そのため、利用できる族譜が限られており、申請者の研究も統計学的な検討には耐えられるものではなかった。その反省を含めて、慎重にデータを集めた。</p> <p>本研究では、2000年代に急速に進んだ中国の族譜資料公開の状況を踏まえ、数量的研究を行うことが可能となった。その結果、従来の研究成果を発展させることが可能になった。具体的には、それぞれの同族集団が生活の場としている生態環境に、人口学的な動向が大きく影響を受けていることを明らかとできるようになった。</p>				

<p>研究成果の概要 (つづき)</p>
<p>復旦大学歴史地理研究中心(以下「センター」)は中国における歴史地理学研究の領域で常に最先端の研究を行っている。歴史人口学の研究の分野でもっとも注目されている侯楊方准教授などから、族譜を用いた研究方法論について教示していただいた。10月20日にはセンターにおいてセンター内の研究スタッフ、復旦大学で歴史地理を学ぶ大学院生・若手研究者の前で、今回の史料調査の成果にもとづき、「浙東諸暨盆地の人口と環境」という表題のもと口頭発表を行う機会を与えていただいた。上海図書館で収集した資料にもとづく分析の結果を示したところ、今後の課題に関する貴重な指摘をいただき、今後の研究の進展に対して大きな指針を得ることができた。</p> <p>また、復旦大学歴史学科の大学院の授業で、ゲストスピーカーとして話す機会も与えられ、環境史に関わる講義を行った。院生とのあいだで闊達な議論を交わせたことも、今後の研究に大いに資するものがあつた。さらに当該センターの朱海浜教授は、申請者の生体環境史に関する著作『森と緑の中国史』の中国語訳を進めており、今回の在外研究の機会を活かして、打ち合わせを行うことができた。</p> <p>本研究期間中の9月26日～29日に南開大学において「中国日常生活史の多様性国際学術シンポジウム」が開催され、参加する機会を得た。シンポジウムでは環境史に関して「東ユーラシアとタカラガイ」という表題を掲げて中国語にて口頭発表を行い、多数の参加者から貴重なコメントを得ることができた。</p>
<p>キーワード (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)</p>
<p>[族譜] [歴史人口学] [盆地] [環境] [宗族]</p>
<p>研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)</p> <p>①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ) ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数) ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所) ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)</p>
<p>①書評:「倉橋圭子『中国伝統社会のエリートたち 文化的再生産と階層社会のダイナミズム』『史苑』</p> <p>④口頭発表:「東ユーラシアとタカラガイ (東欧亜与海貝)」南開大学社会史研究中心主催「中国日常生活史の多様性国際学術シンポジウム」2011年9月27日</p> <p>口頭発表:「浙東諸暨盆地の人口と環境」復旦大学歴史地理研究中心主催研究セミナー、2011年10月20日</p>

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。